

遠野地域木材総合供給モデル基地内の5S取組み

当モデル基地は、平成6年3月に北上川中流流域の林野庁による地域指定を受け、平成5年から15年までの期間に整備され、総事業費は約77億9千万円となっています。

団地内には、

- ① 遠野地方森林組合
 - ② 遠野木材加工事業（協）
（プレカット、パネル加工）
 - ③ （協）ノッチ・アート遠野
（木製建具、その他加工品等）
 - ④ （協）リッチヒル遠野
（製材、製材品協同生産）
 - ⑤ （協）遠野グルーラム
（大断面集成、集成材加工等）
 - ⑥ 遠野木材工業（協）
（木材乾燥等）
 - ⑦ 北上山地家具製作（協）
（家具製作、民芸家具等）
 - ⑧ （株）リンデンバウム遠野
（住宅建築、外構等土木製品等）
 - ⑨ （法）遠野職業訓練協会
（遠野高等職業訓練校の運営）
- が立地(参画)しています。

近年、住宅着工戸数の減少や公共事業の縮減等により団地全体の事業量が減少しています。

平成19年度は県南広域振興局の地域振興推進費事業により、各事業体の「総合診断」を実施し、事業体や団地全体が取組むべき課題が提起されました。

平成20年度もその一環として団地全体で5S運動を開始することとして、8月に第1回の研修が行われました。(団地内組織の組合で主催)

講師は、岩手県工業技術集

積支援センターの鈴木高繁アドバイザーで、研修の内容(要約)は以下のとおりでした。

- ① 5Sのための5Sではなくて、経営改善のための5S活動である。
- ② 5Sのうち、整理（要るものだけがある）、整頓（直ぐに取り出せる）を行っていく。
まずは1Sから取組もう。
- ③ 5S活動により外部から認められ、営業力の向上に繋がる。
- ④ 在庫を把握するため、「不要品判定基準一覧表」を作成し、捨てるものを決める。
- ⑤ みんなで考えながら一つ一つ取組み、経営改善に繋げる。
講師からは、上記の基準一覧表を作成するよう指示されました。
経営の「ムダ」の原因の一つに消耗品のムダ（費用）があり、消耗品も対象にリストアップしてから検討することとしています。

